

—認知症は、どんな治療が望ましいのか。

三山 毎日の生活を見直すことで、状態が改善したり、



老年期精神疾患センター長

三山 吉夫医師（三股・大悟病院）

進行しなかったりすることが少なくない。そのためにも早期診断と対応が望ましい。進行を遅らせる薬や残っている能力を引き出す薬はあるが、薬はあくまでも補助。生活の見直しが必要であれば効果が少な

いことを、本人や家族にゆっくり説明すれば納得してもらえることが多い。

—家族が認知症ではないかと心配なとき、まずどこに行けばいいか分からない人が多い。

三山 精神科は行きにくい

—認知症疾患医療センターの協力が欠かせない。

の担うべき役割は。

三山 徘徊（はいかい）や

大声、暴力などの行動障害にかかりつけ医が対応できないときはセンターが引き受ける。行動障害の多くは、体の

治療に生活見直し大切

ようだ。何科でもいいが、精神機能をしっかり診てくれる医療機関を受診した方がいい。自治体や地域包括支援センターに対応可能なかかりつけ医のリストがある。ここで認知症について相談に乗ってほしいとはっきり伝えてほしい。

状況や環境が原因となることが多い。センターでは行動障害の背景を検討して対応し、ひとまず落ち着いた後は本人が住み慣れた場所でかかりつけ医にフォローしてもらうシステムをつくる。

—かかりつけ医や地域全体

ながらない。かかりつけ医をはじめ福祉関係者との連携がこれからの課題でもある。そういう方向に持って行くのも一つの役割。3センターが合同で定期的な、医師向けと一般向けに講演会や報告会を開いていく計画だ。